

HOPE

中国帰国者2世が笑顔で

日中国交正常化50年

暮らすための法改正を

中国残留孤児は1945年の敗戦時に中国東北部に取り残された子ども達です。日本政府の帰国政策の

遅れにより、残留孤児が帰国できた時にはすでに高齢となっており、中国で家庭を築いていた方も多くいました。

彼らが帰国する際、配偶者や子ども達(2世)も帰国しました。2世の中には終戦直後に生まれ、現在70歳を超えている方

も多く、日本語が不自由な中で日本社会で仕事を不得生活していくのは困難で、厳しい状況に置かれています。満足な年金を

受け取ることもできません。2世の多くは生活保護に頼らざるを得ないのが実情です。日本社会の中で孤立するケースも少な

くありません。帰国者2世が、日本に帰ってきて良かったと思えるよう、支援法を改正し、社会全体で支えていく仕組みが必要とす



ZOOM
オンライン

中国帰国者問題・院内集会

4月18日(月)14時～

ZOOM参加の場合
ID: 691 814 7753

国会・参議院議員会館B107会議室

パスコード: 5vBGNp



九州地区中国帰国者二世連絡会
日本中国友好協会

福岡市中央区渡辺通2-8-23-3F 電話092-761-0604
Eメール kikoku@jcfa-fuk.jp
日本中国友好協会福岡県連合会内(担当星野信)

H O P P E

中国帰国者2世が笑顔で 暮らすための法改正を

小島北天さんは、1947年11月に「満洲」の奉天(現瀋陽)で日本人看護師の母から生まれた中国残留孤児2世です。

小島さんは1996年にようやく帰国でき49歳になっていました。

小島さんは、数ヶ月間、支援交流センターで日本語教育を受けただけで日本社会に放り出されました。日本語がうまく話せないため正社員として働けたのは数年で、それ以降は草刈りや皿洗いなど単純労働に従事して家族を養わなければなりません。年金は1万9000円しかなく、70歳を超えた今も毎日肉体労働をして生活費を稼がなければなりません。



「みなさまのご支援に心より厚く御礼申し上げます」

小島北天(九州地区中国帰国者二世連絡会会長)



二世問題の解決なくして、中国残留日本人問題の真の解決はありません。残留日本人の歴史的被害を、次の世代にまで積み残してはなりません。

浅野慎一(神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授)

要求項目3点

- 1 1世やその配偶者だけでなく2世にも老後の生活支援をしてください
- 2 私費帰国の2世も国費帰国の2世と同等に通訳・日本語教育サービス等が受けられるようにしてください
- 3 中国への里帰りが2週間を超えても生活保護費を減額・停止しないでください